



(1) キャンプスライフイノベーション

1限を遠隔（オンデマンド型）授業にしたことにより、キャンパスで行われる授業は2時間開始時刻の10時10分開始となるので、遠方からの通学も可能になり、通学エリアの拡大が期待できる。効率よく時間割が組めれば、学生の自由に使える時間が増える。

(2) 学生プロジェクト

学生による自主的な理工学に関する創造活動。ミツバチを飼育し採取したハチミツを商品化する「みつばちプロジェクト」は、ハンドクリームと入浴剤が都内ホテルのアメニティに採用。今年10月にオーストラリア縦断「2023ブリヂストンワールドソーラーチャレンジ」に挑むソーラーチームは30社を超える企業と連携しており、7月には新車両を発表している。その他、NHK学生ロボコンなどで活躍するロボットプロジェクト（KRP）など、現在12のプロジェクトが展開中。

(3) 工学者のための数理・データサイエンス・AI教育プログラム

令和2年度に開始したプログラム。工学者として数理・データサイエンス・AIについて関心を持ち、理解し、それらを活用する基礎的な力を持つ人材の育成を目的としている。大きく変わりつつある社会の中で求められる工学者としての役割・責任とを自覚し、数理・データサイエンス・AIの広範な適用領域を意識しながらデータを適切に読み解き、活用する方法を身に着けることができる。

(4) 情報科学科

情報学部では、2023年4月よりシステム数理学科が「情報科学科」に名称変更し、新たな情報学部4学科での学びがスタートした。情報科学科では、データ分析、人工知能等の統計やモデル化技術に基づいて「問題の発見」「問題の分析」を実行し、「問題の解決」可能な情報システムの設計や提案ができる技術者を育成する。

また、就職支援センターでは定期的な全学生の進路決定状況を各学科の研究室と共有し、就職活動をフォローしています。

学びの改革で時間を有効活用 学生プロジェクトや留學も活発

工学院大学には主に3、4年生が通う28階建ての新宿キャンパスと、1、2年生が学ぶ約23万㎡の広大な敷地を誇る八王子キャンパスがあり、2拠点が最速45分のシャトルバスで結ばれています。コロナ禍を機に全学部でオンライン授業を導入。2022年度に学びの改革「キャンパスライフイノベーション」を実施し、時間割等の見直しなどで学生はよりフレキシブルに学修環境を選べるようになりました。

授業実施形態には、大学の教室で行う通常の「対面授業」、一つの授業を対面とオンラインで同時に実施する「ハイフレックス型授業」、決められた曜日時間にICT機器を用いて参加する「遠隔（同時双方向型）授業」、学生自身が任意の時間に受講できる「遠隔（オンデマンド型）授業」があります。原則、1限と6限は遠隔授業として通学時のラッシュを回避し、2限から5限は対面での実験・実習・演習授業を組み込んでいます。

さらに、基礎科目や専門科目、実験科目の曜日学部ごとに決め、まとめて受講できるよう配慮するなど、受講の効率を向上させる時間割を整

しい半導体材料を用い、ある波長域の紫外線を発生させることに世界で初めて成功しました。研究成果は水銀の撤廃や光源の小型化・省エネに貢献する技術として注目されています。

工学部機械工学科の西谷要介教授からは、航空機や宇宙機器にも広く使用されている高分子材料（プラスチック・ゴム）のリサイクルや複合材料について研究。建築学部建築デザイン学科の富永祥子教授は木造高層ビルでSDGsを実現する「木造都市」を構想しています。また、情報学部情報科学科（2023年4月名称変更）の大和淳司教授は、人と人、人とロボットのインタラクションの分析、解明に取り組んでいます。

「国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が主催する国内最大規模の産学マッチングイベントにおいて、本学は全国の大学でトップクラス（4年連続東日本の私立大学1位）の研究成果採択数を誇ります。この成果発表の経験が、学生のさらなる研究意識の向上と発信力を高めるきっかけとなっているのです」

（伊藤学長）

学生はそれぞれ第一線の研究現場に配属され、卒業研究を行います。各研究室の多くは少人数制で、教員や先輩との距離が近く、研究の最前線を身近にできる環境です。学部で培った専門性を就職に活かすべく、教員と職員が一体となって就職支援を進めているほか、さらに高度で実践的な段階へと進めた応用研究を行

工学院大学のキャリア形成・就職支援



就職支援センター

インターンシップやキャリア・就職関連プログラムの提供、個人面談などを通して、大学生活で得た学生の知識や技術、資質や特性を就職へとつなげます。

キャリアデザインセンター

インターンシップやキャリア関連科目の検証と分析を行い、それらを研究力や就職力につなげ、学生たちが専門性+αの能力を身につけるための新たな教育カリキュラムの検討を行います。

就職支援



学生

実社会で活かせる専門分野における知識・技術の修得 実践を通じた人間的な成長 (=社会人基礎力の向上)

学生活動支援



学部学科・専攻・研究室



学生センター

学生プロジェクトやクラブ・サークル活動など、学生が主体となって活動する機会を支援。実験を通じた学生の成長を促します。

教員・研究室

教員による最先端の研究をもとに教育を行います。専門分野における基礎的な力、高度な知識や技術を修得させるだけでなく、社会人基礎力の向上に資する授業展開や研究室運営を行います。

このプログラムは第4次産業革命 Society 5.0、データ駆動型社会など、現代の社会の変容に関連した内容となっています。授業では社会での実例を題材として、データを読む・説明する・扱うといった基本的な活用方法を学修。さまざまな現場におけるデータ活用事例や、データを多様な適用領域の知見と組み合わせる価値を創出する事例などが示されます。また、情報セキュリティや情報漏洩など、データを守る上での留意事項に対する理解を深めます。

多彩な最先端研究の現場で卒業研究に没頭できる環境

工学院大学では4年次になると、研究室に所属して自分の研究テーマに取り組めます。先進工学、工学、建築学、情報学の4学部15学科に167の研究室が存在し、研究内容も未来の発展につながる基礎的研究からすぐに社会還元される応用研究まで、幅広い分野にわたります。

その一端を紹介すると、先進工学部応用物理学科の尾沼猛儀教授は新

しい半導体材料を用い、ある波長域の紫外線を発生させることに世界で初めて成功しました。研究成果は水銀の撤廃や光源の小型化・省エネに貢献する技術として注目されています。

工学部機械工学科の西谷要介教授からは、航空機や宇宙機器にも広く使用されている高分子材料（プラスチック・ゴム）のリサイクルや複合材料について研究。建築学部建築デザイン学科の富永祥子教授は木造高層ビルでSDGsを実現する「木造都市」を構想しています。また、情報学部情報科学科（2023年4月名称変更）の大和淳司教授は、人と人、人とロボットのインタラクションの分析、解明に取り組んでいます。

「国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が主催する国内最大規模の産学マッチングイベントにおいて、本学は全国の大学でトップクラス（4年連続東日本の私立大学1位）の研究成果採択数を誇ります。この成果発表の経験が、学生のさらなる研究意識の向上と発信力を高めるきっかけとなっているのです」

（伊藤学長）

学生はそれぞれ第一線の研究現場に配属され、卒業研究を行います。各研究室の多くは少人数制で、教員や先輩との距離が近く、研究の最前線を身近にできる環境です。学部で培った専門性を就職に活かすべく、教員と職員が一体となって就職支援を進めているほか、さらに高度で実践的な段階へと進めた応用研究を行

いたい学生には、大学院工学研究科に進学する道もあります。

高大連携で探究活動を支援 学生の夢を全力で応援

工学院大学では、協定校との共催の探究シンポジウムで高校生の探究活動の発表・交流の場を提供したり、高校生の探究成果をアーカイブする探究データベースを構築したりといった取り組みを行っており、高校生はこれらを入学試験で活用することもできます。こうした取り組みは、文部科学省の令和4年度「大学入学者選抜における好事例集」に「高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進」区分で取り上げられています。

「本学の創始者である、帝国大学（現東京大学）初代総長の渡邊洪基先生の墓石には「夢」という一文字が刻まれています。入学を希望する方々には、まず夢を持っていただきたい。そして自分の未来予想図をしっかりと描き、基礎力を身につけて夢を叶えて欲しいと思います。工学院大学は、皆さんの夢を全力で応援します」と伊藤学長はエールを送ります。



いとうしんいちろう
伊藤慎一郎学長

1979年東京大学工学部機械工学科卒業。86年同大学院工学系研究科船用機械工学専門博士課程修了。専門はスポーツ流体力学、生物流体力学、流体力学。日産自動車、防衛大学校講師、ペンシルベニア州立大学客員研究員、放送大学院客員助教授などを経て、2009年工学院大学教授、21年より現職。

日本が工業立国への道を急いでいた1887（明治20）年、「モノづくりのエンジニア・リーダーを育てる」ことを理念に掲げ、工学院大学のルーツとなる工手学校が創立されました。以来136年経ち、超スマート社会 Society 5.0を迎えようとしている現在、最先端技術はハードおよびソフトづくりに集約されています。工学院大学はどちらもこなせる「21世紀型エンジニア」の育成に力を入れ、確実な基礎力と、それを応用展開できる実践力が身につくカリキュラムを体系化し、展開しています。

学生が主体的にモノづくりに取り組む学生プロジェクトや社会貢献事業が活発なのも特徴です。工学とその関連分野の専門知識・技術の修得にとどまらず、総合的な人間の涵養を重視している証だと言えます。

工学院大学

〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2 アドミッションセンター TEL 03-3340-0130 <https://www.kogakuin.ac.jp/>

豊富な「実体験」学修で学生をサポート
超スマート社会で求められる
21世紀型エンジニアを育成する

工学院大学は、大学や大学院での学びや研究を活かしたキャリア形成・就職支援に積極的に取り組んでいます。毎年安定した就職率を維持しており、2022年度の就職内定率は96・5%。卒業生は機械系、化学系、電気系、建築系、情報系など多彩な領域で活躍しています。

キャリア教育は入学直後から始まります。自己分析ツールである「キャリアデザインノート」を活用して自己分析を行い、目標や成長を可視化するとともに、「ロジカルライティング」の授業では、論理的な思考と表現力を養います。

学生一人ひとりを支援するためにキャリア教育専任教員を置き、「キャリアデザインセンター」「学生センター」「学部・学科の教員・研究室」「就職支援センター」の各セクションが多角的に連携。特に「実体験」を重視し、社会人基礎力を向上させる演習を多数用意。学部卒業でも即戦力になり得る力を身につけます。

また、就職支援センターでは定期的な全学生の進路決定状況を各学科の研究室と共有し、就職活動をフォローしています。

学びの改革で時間を有効活用 学生プロジェクトや留學も活発

工学院大学には主に3、4年生が通う28階建ての新宿キャンパスと、1、2年生が学ぶ約23万㎡の広大な敷地を誇る八王子キャンパスがあり、2拠点が最速45分のシャトルバスで結ばれています。コロナ禍を機に全学部でオンライン授業を導入。2022年度に学びの改革「キャンパスライフイノベーション」を実施し、時間割等の見直しなどで学生はよりフレキシブルに学修環境を選べるようになりました。

授業実施形態には、大学の教室で行う通常の「対面授業」、一つの授業を対面とオンラインで同時に実施する「ハイフレックス型授業」、決められた曜日時間にICT機器を用いて参加する「遠隔（同時双方向型）授業」、学生自身が任意の時間に受講できる「遠隔（オンデマンド型）授業」があります。原則、1限と6限は遠隔授業として通学時のラッシュを回避し、2限から5限は対面での実験・実習・演習授業を組み込んでいます。

さらに、基礎科目や専門科目、実験科目の曜日学部ごとに決め、まとめて受講できるよう配慮するなど、受講の効率を向上させる時間割を整

備し、これにより、課外活動等への参加も以前より容易になりました。

工学院大学では、全国的に知られるソーラーカーチームをはじめ、自主的な学生プロジェクトも活発です。学びの改革で生まれた空き時間を有効活用し、ますます実践的なモノづくりにつながることが期待されます。

また、工学院大学では、まずは「海を渡る」ことを目的に「ハイブリッド留學」を開発しました。参加に際し英語力不問、現地授業料不要とした新しい留學プログラムで、異文化に触れ、理解し合う経験からグローバルな視点が養われます。

「二度海外を体験することで世界への視野が広がると、英語学修へのモチベーションも上がります」と伊藤慎一郎学長は話します。

数理・データサイエンス・AI教育プログラムを展開

技術者として数理・データサイエンス・AI領域について理解し、それらを活用する基礎的な力の養成を目的とした「工学者のための数理・データサイエンス・AI教育プログラム」は、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されています。



新宿キャンパス